

北信教育事務所だより



～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

令和5年9月28日 第4号

「教科等の資質・能力の確かな育成」を目指して

「『令和の日本型教育』の構築を目指して」では「個別最適な学び」「協働的な学び」それぞれの学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の必要性が示されています。北信地区でも、多くの学校で実践が進んでいます。

本号では、「教科等の資質・能力の確かな育成」を目指した実践を紹介し、資質・能力の育成に関わるキーワードの一つ「見方・考え方を働かせること」について考えてみたいと思います。

中教審答申（令和3年1月26日）で示されたこと

学習指導要領に示された目標や内容の充実
資質・能力の確かな育成

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの
授業改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の
一体的な充実



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に
向けてどんなことを大事にしていますか

須坂市立東中学校 花房瑞枝先生の実践紹介（3年 国語）



【花房先生の願い】 生徒の追究過程を大切にしたい

花房先生は、日頃の授業から、生徒の書き表したい内容が違っていたり、追究の進度や、既存の知識が違っていたりすることから、生徒個々の追究過程をより一層大切にしたいという願いをもっています。

単元づくりのポイント（俳句）

✿ポイント①✿ 「問い」をたてる

学習後「小林一茶俳句大会」へ創作俳句を投句することへ向けて、問いを立てます。単元の初めに、生徒たちと「『才能アリ』（テレビ番組のコーナーより引用）の俳句を作るためにはどうしたらいいだろうか」という問いを共有しました。

✿ポイント②✿ 生徒個々の追究方法を予想する

生徒たちが、どのように追究していくか予想し、「学びの場（環境）づくり」と、「教材づくり」をします。花房先生は、教科書教材の資料を拡大掲示したり、歳時記等の書籍や、俳句に関する動画を用意したりするなどの準備をしました。

✿ポイント③✿ 生徒が学習計画を立てる

学習活動の大まかな流れ（俳句の特徴を知る、表現の工夫を見つける、俳句を創作する）を確認した後、生徒は個々に学習計画シートに学習の進め方を記入します。この学習計画シートは、1時間で取り組んだこと・考えたこと、次の時間の取り組むことを記入するふり返りシートもかねています。

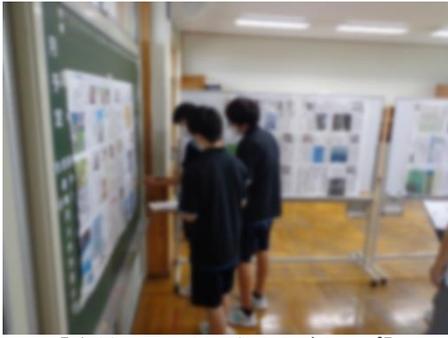
<本号の主な内容：☆「教科等の資質・能力の確かな育成」>

- ☆その1 実践紹介 須坂市立東中学校
- ☆その2 実践紹介 長野市立飯綱中学校
- ☆その3 「第2回研究主任研修会」より

頁

- ①～②
- ②～③
- ③～④

授業での生徒の姿から



【資料を見ながら考えるグループ】



【書籍等に情報を求めるグループ】



【まず創作に取り組む生徒】

教科書に紹介されている俳句の技法、良さ、工夫点を探りたい生徒は、資料、教科書、インターネット、級友の追究などを手掛かりにしようと活動します。句のどの表現、言葉に着目して考えるのか、級友はどんな言葉で説明しているのか。生徒は「言葉による見方・考え方」を働かせながら、伝えあって学びを進めていました。

✿ポイント④✿ 追究シートの共有、閲覧をできるようにする（ICT活用）

追究が少し行き詰ったAさんは、クラウドにアップされている級友の知ったこと、わかったことが書いてある追究シートを見て「そういうことか!」とつぶやき自身の追究に生かしていました。参考にした級友が近くを通った時に呼び止め、追究内容を確認します。二人は自然と協働的に学んでいきます。

自分がどんな表現、言葉に着目したのか追究シートにまとめ、閲覧できるようにしたことで、よりよい追究になるよう成果を持ち寄り「協働的」に学びを進めることにつながりました。ペアで追究していたBさんは、授業の最後、ペアに向かって「まじ疲れた!楽しいけどね」と伝えました。うなずき合っただけでふり返りシートを提出していく二人の姿から、学びに浸りこんだ思いを共有し、本時の学びに対する充実を感じました。

飯綱町立飯綱中学校 菅徹平先生の実践紹介（2年 数学）



【菅先生の願い】

課題に粘り強く取り組める生徒になってほしい

菅先生は、生徒たちは意欲的に取り組むが、自ら追究を進めたり自信をもって自分の考えを述べたりすることに課題があると感じていました。そこで以下のようなポイントを大切に授業づくりをしています。

単元づくりのポイント（連立方程式）

✿ポイント①✿ 生徒の問いを題材にする

この日の授業は、連立方程式の解が問題にあっているかを吟味する必要性に気づく、という場面でした。菅先生は、まず問題を提示し、疑問に思う点を発言するよう促しました。発言をした生徒に問い返しをしながら生徒の主体性を高め、学習問題を設定しました。

✿ポイント②✿ どこに視点をあてて進めばよいか分かるまで生徒とやり取りをする

その後、一人ひとりが自分の力で学習に取り組めるようにするために、全体で既習事項を振り返ったり問いの意味を確認したりとさらにやりとりを続けました。このやりとりの中で、生徒たちはどこに視点をあてて学習を進めていけば問いに対する答えにたどり着けそうかを掴んでいきました。

✿ポイント③✿ 自分で学ぶ場の設定

菅先生の「それでは始めましょう」の言葉を合図に、生徒たちは一斉に席を移動し、自分で学ぶ形態と取り組む問題を選択してから問いに迫っていきます。一人で学ぶ、数人でグループになって学ぶ、A問題から取り組む、B問題から取り組む等、様々です。注目したいのは、グループになった生徒たちも、他人に頼ることなく、右の写真のように、まずは1人で取り組む、という姿があったことです。生徒の実態から全体で確認すべき内容を考え、指導したことが有効だったと考えられます。



Cさんは、いくつか問題に取り組んでいましたが、解を出すところまでは順調にいくのですが、その解が適切かどうか検証する方法について悩んでいました。その後、同じグループのDさんとEさんに自然な対話が生まれそれを聞いていた



D生: 答えがマイナスになっちゃう
E生: 問題に合っていない?
C生: 何が合わないの?
E生: だって花の本数がマイナスって...?
C生: あっ! そういうこと!!

Cさんが加わります。そしてその会話の中で、自分が直面していた課題を乗り越えられる考え方に気づき、本時のゴールである「解の吟味の必要性に気づく」ことができました(左参照)。必要性を感じて協働的に学んだ結果です。自分が

学びやすい学習形態を選択できる良さが現れた瞬間でもありました。



子どもが各教科等における見方・考え方を

働かせている姿とは、どのような姿ですか

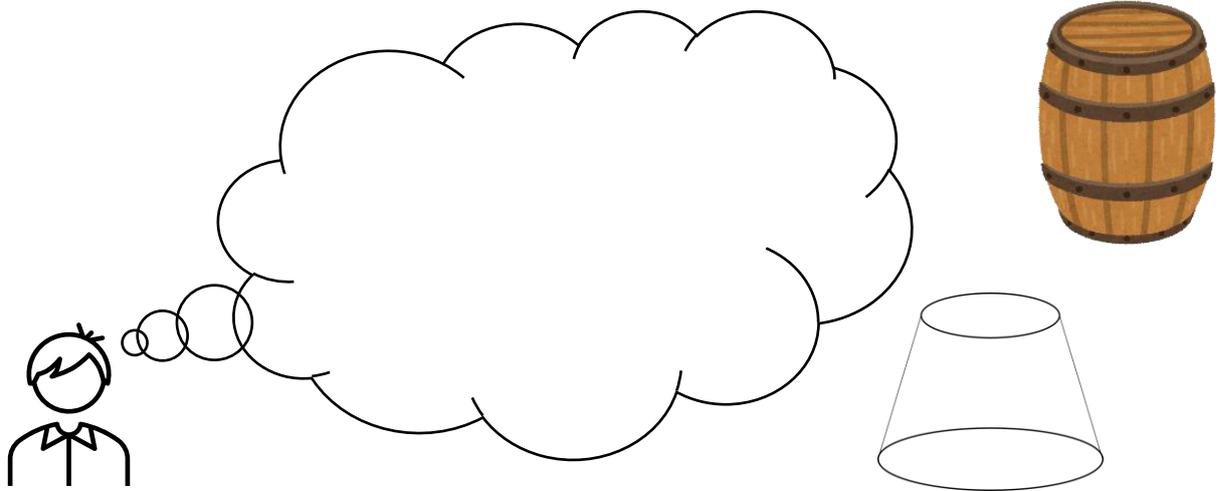
第2回 研究主任研修会 9月14日(木)

～「見方・考え方を働かせる」とは～

今回は北信管内の117名の先生方にご参加いただき、全国学調の結果の見方(分析の仕方)や研究推進のあり方等について熱い議論が交わされました。また、全国学調をもとに「教科の本質に迫るための探究する授業」について考えました。全国学調で出題された問題をもとにして、児童生徒が見方・考え方を働かせる授業づくりの手がかりを、国語、算数・数学、英語の担当指導主事からお話しさせていただきました。その中から、算数に関わる部分を紹介します。



角柱や円柱の体積の求め方を学んだ児童が下図の立体の体積について考える時、どんなことを考えるでしょうか。



児童は今まで学んだ知識や考え方を駆使して、体積を求めようとするでしょう。しかし、この場合「底面積×高さ」では体積が求められないことに気がつく、その理由を説明するのではないのでしょうか。「なぜ成り立たないのか」を考えることは、これまで学習してきたことについて改めて考察したり、論理的に確かめたりすることになります。このことが、「数学的な見方・考え方」を働かせることであり、児童生徒に資質・能力を育むことにつながります。

児童生徒が、各教科等の見方・考え方を働かせている姿について、自校の先生方で語り合ってみるのはいかがでしょうか。そこに授業を充実させるヒントがありそうです。

! 全国学調の問題には、授業改善におけたメッセージが込められています

第3回 日々の授業改善研修

授業・学級づくりについて、一緒に考えませんか？



資質・能力を育成するために
授業で大切にすることは？

11月20日(月)
長野合同庁舎

- ・演習
実践した授業の振り返り
成果と課題の整理
実践発表 等
- ・教科毎のグループトーク



申込みは、オンラインの申込みフォームからお願いします。(※11月13日)